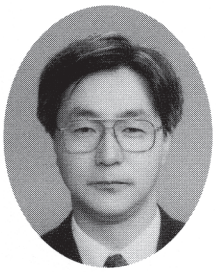
2000. 5. 10

(Japanese Academy of Learning Disabilities)

JAL D 日本LD学会会報 第33号

事務局：栃木県カウンセリングセンター内
〒320-0851 宇都宮市鶴田町687-9ムギショウビル2F TEL.028-647-1717 FAX.649-1213
URL. http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/jald/



ＬＤをもつ子どもと学校教育

北海道大学教育学部
室　橋　春　光

ＬＤは、DSM-IVによれば読み・書き・算数の障害ということになるが、ＬＤをもつ子どもたちの多くは、集団適応の問題も抱えている。「勉強」と「集団活動」の二つは、日本の学校教育において最も重要とされる課題であり、車の両輪のような密接な関係にある。これらの課題に乗り切れない子どもたちは、学校集団における余裕の喪失と共に析出してくることになった。

ＬＤをもたない子どもたちは、読み・書き・計算をはじめとする基礎的「勉強」を難なく進めていくようにみえる。先生たちにとって、「勉強」の基礎に横たわる学習メカニズムの複雑さを理解することは、容易ではない。ＬＤをもち、学習につまづきやすい子どもたちの指導をどのようにしたらよいか、先生たちにはわかりにくいことが少なくないのである。ＬＤをもつ子どもたちも、その子どもにあった内容を、時間をかけて学んでゆけば、理解できることが多い。しかし、先生たちには、個別に子どもたちに対応してやれる時間は少ない。子どもたちを「白」と「黒」に分けて見てしまいやすく、濃淡のパターン、すなわち子どもの個性をじっくり分析する余裕がない。

「集団活動」への対応についても、少子化の現代では学校に強い期待がかかる。しかし、学校における教師と個々の子ども、そして集団との関係が、再検討される必要があろう。子どもたちは、生涯にわたり、共に地域で暮らすのである。子どもどうしの関係を育てることが重要になろう。ＬＤが「問題化」することになった背景には、子どもを取り巻く文化的・社会的要素の変化がある。先生の指導力のみを問題とするのではなく、子どもたちを取り巻く環境要因の検討も必要であろう。

他方で、ＬＤをもつ子どもの抱える問題を、認知心理学的・生理学的な面から見直すことも重要と思われる。ＬＤの集団適応の問題は読み・書き・算数の障害より生じた２次的障害なのか、読み・書き・算数と並びうる本質的な「学習」の問題の局面を有するものなのか……。ＬＤは、学校教育における「勉強」と「集団活動」の本質について、我々に再考を迫るもののように思われる。